

(様式4)

平成27年度 日上市教育研究先進校等調査派遣研修報告書

日上市立十王中学校 教諭 菊池 宗大

- 1 派遣期限 平成27年8月6日(木)
- 2 研修先 学校名(会場名) 茨城県牛久市立下根中学校
所在地 茨城県牛久市下根町829
<http://www.ushiku.ed.jp/page/page000264.html>

3 研修内容

授業を通して学び合える学習集団を高める

(1) 研修選定の理由

ここ数年で下根中学校は小学校1年生からの一貫した指導で著しい成果を上げている。日々の授業では一斉授業を行わず、コの字型とグループ学習の使い分けていることに大変興味を持った。また、すべての子どもたちが主体的に学ぶためのアクティブラーニングの充実について研修したいと思い選定した。また、本校の教育活動の活性化のため、よりよい教育実践の提案ができるように研修を行った。

(2) 実践事例「学びの質を高める学習課題のあり方」

下根中学校では、協同的な学習(日々の学び合いの授業)の全職員共通実践により、以下の具体策を実践し、共に学び合える学習団づくりを継続している。また、授業の仲で育まれたよりよい人間関係を生かし、学びの質を高める学習課題を追求している。

① 授業づくりの視点の共有化

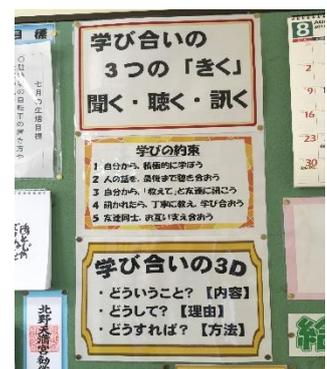
- 全授業全時間で「学び合い」を行う。
 - ・コの字型、4人班と使い分け、学習形態を工夫する。
 - ・全職員全時間でやるからこそ効果が上がる。
- 学ぶ価値(必然性)のある高い学習課題を設定する。
 - ・教師が教えた視点ではなく、生徒が学びたくなる視点から課題をつくる。
- 聞き合う関係を築く。
 - ・学びは「話す」ことより「聴く」ことでより深まる。
 - ・正解を求めるのではなく、「わからなさ」を聴くことで共有化を図る。
- 生徒一人一人の学びに寄り添う。
 - ・一人一人の学びを見取りわからなさでつなげる。
 - ・子どもへの支援は、その子と同じ目線ではいる。
- 互いに支え合う互恵的な学びをめざす。
 - ・わからない子が助けを求めるまでじっと見守ることのできる子を育てる。
- 学習のまとめは学びの足跡で振り返る。
 - ・今日のつまずきは何で、どのように乗り越えたかについてまとめる。

② 授業参観の日常化：開かれた教室づくり

- 空き時間はできるだけ教室で過ごす。
 - ・同僚の授業を観察し指導法を学ぶ。
 - ・他教科での生徒の学びの様子を観察し、一人一人の良さを発見する。
- 組織目標の実現状況を生徒の姿で共有する。
 - ・学年主任会(毎週木曜2校時)、生徒指導連絡会(毎週火曜2校時)には打ち合わせ後、授業参観を行う。

③ 授業研究の計画的実施

- 学年ごとに毎月、授業研究を実施する。
 - ・授業参観の視点は「学んでいる表情」を中心に観察する。
 - ・授業後に生徒の学びの事実を固有名詞で語り合う。
 - ・教師同士が互いの悩みを語り合う中で同僚性を構築する。



(3) 下根中学校の授業研修の目的

思春期の子どもたちは親や友だちの些細な言動に不安になったり、テストの成績に敏感になったりする。そして、学習成績や友だち関係など様々な不安が自己評価（自己肯定感、自尊感情）を低下させる。これが不登校やいじめ、暴力行為といった問題を引き起こす。

一方、学校で学ぶことの意義も単なる知識を教師から与えられるものではない。多くの友だちと関わりながら共に学ぶなかでこそ、思考力や表現力、人間関係形成能力等が育ち、結果として確かな学力が定着していく。結果として互いに学び合える人間関係が育っていくことで、一人一人の学校生活が豊かなものとなり、学校も変わっていくと考える。すべての教師が毎月の授業を少しずつ変えることを大切にしている。

○ 毎月の授業公開について

- ① 見ている先生は教師を観察するのではなく、生徒一人一人の表情を観察する。
- ② その中で、学べていない生徒（寝てしまう、やる気がない、無駄話）を見つける。
- ③ 放課後に「なぜあの生徒が学べなかったのか」について語り合う。
- ④ これを毎月繰り返し、職員全員で共有する。同時に、教師間の人間関係をふかめ、組織として教師の授業力を向上させる。



4 公開授業参観

説明し伝え合う活動を通して、仲間と共に学び続ける集団を育てるための課題設定の工夫

(1) 単元「1次関数」

(2) 展開

① 本時の課題を知る。

三角フラスコに一定の割合で水を入れるときの、時間と水の高さとの関係を表すグラフのおおよその形をかこう。

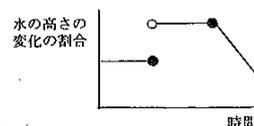
② 学習問題の解決を図る。

(1) グラフの形を考える。

(2) グラフの形と変化の割合の関係について比較検討する。

③ 発展課題を知る。

ある容器に一定の割合で水を入れるとき、時間と水の高さの変化の割合の関係を表すグラフをかくと次のようになった。この容器の図をかこう。



5 感想

今回の研修では一斉授業ではなく、学習形態を工夫したアクティブラーニングや学び合いなどさまざまな実践を研修することができた。研修を通して一番驚いたことは、すべてのクラスにおいて学習を放棄している生徒がいなかったことだ。学習が苦手な生徒も周りの生徒に必死になって教えてもらおうとしていた。学力向上だけでなく自己評価の向上や学校の落ち着いた雰囲気づくりの成果が現れていると感じた。本校にあった実践例を取り入れ、教育活動の充実を図っていきたい。